

ヌートカ語の表記

中山俊秀

ヌートカ語の状況

ヌートカ語はカナダのブリティッシュ・コロンビア州南西部に位置するバンクーバー島の西岸地域にすむヌートカインディアン言語である。現在では話者の数は非常に少ない（数十人）が、部族内ではヌートカ語の保持しようという動きはある。ヌートカインディアンはほとんどは英語の単言語話者である。ヌートカ語の話者も英語とのバイリンガルであり、日常はほぼ完全に英語で生活している。

表記法の現状

ヌートカ語には、現在のところ正式な正書法はないが、ヌートカ語の言語教材などには言語学者の用いてきた音声表記システムに基づいた表記法が利用されている。一般向けには英語のスペリングを流用した表記法が用いられている。

ヌートカ語を表記する差異の問題

ヌートカ語は、コミュニティの中で主に用いられる英語と比べ、音声的に非常に異なった構造を持っている。ヌートカ語では多くの非英語音が用いられ、さらに母音の長短の区別もある。したがって、文字表記に際しては、それらの音、音対称をどう表記するかが問題になる。

表記法の試みの歴史

IPA	Sapir&Swadesh 1939	Sapir&Swadesh 1955	Thomas&Arima 1970	教育用アル ファベット
ts	c	c	ts	c
t's	% _o	% _o	ts'	% _o
t	Ō	Ō	ch	Ō
t's	Ê	Ê	ch'	Ê
ò	ò	ò	H	ò
î	î	î	l	î
tî	Ç	¶	tl	Ç
t'î	•	¶'	tl'	•
ʃ	ç	ç	sh	ç
â	â	â	â	â
	'¶	'	!	ã
χ	†	χ	X	†
, , , , , ü, é	, , , , , ü, é	, , , , , ü, é	p', t', k', q'	, , , , , ü, é
Ü, è, é, ê	Ü, è, é, ê	'm, 'n, 'w, 'y	âm, ân, âw, ây	Ü, è, é, ê
f, TM	f, TM	f, TM	kw, qw	f, TM
ï, î	ï, î	f, ^{TM'}	kw', qw'	ï, î
©, x̂	©, ®	©, ®	xw, Xw	©, ®
o ~ u	o	u	o	u
V:	V:	VV	V:	VV

Sapir & Swadesh

Sapir & Swadesh (1939, 1955)は専門的な言語記述であり、一般的な利用は考えられたものではない。1939 と 1955 の間では咽頭閉鎖音、長母音、高後母音 (high back vowel) の表などに違いが見られるが、基本的には用いられている音声表記システムはアメリカ記述言語学の中で今も広

く用いられているものである。

Arima & Thomas

Arima & Thomas のシステムは実用正書法として提案されたものであるがその使用は定着していないようである。Sapir & Swadesh と比べての特徴は使う文字を極力英文タイプライターで打つことができるものに絞った点であろう。その代償として、多くの音に対して文字を重ねて表さざるをえなくなっている。近年のコンピュータ上での特殊記号処理の進化もあり、タイプライターで打てる表記システムという利点は意味を失っているため、魅力にかけるシステムとなってしまった。

ヌートカ語教育用アルファベット

ヌートカ部族内でのヌートカ語教育などで使われる表記法として受け入れられたもので、基本的に言語学者らが記述に用いている音声記号システムに沿っている。

英語ベース

現在ヌートカ部族内では、上の音声記号に沿った表記法のほかに、英語の表記法に基づいたつづり法が使われている。このつづり法は、部族の正式名称にも用いられており、地元の部族内広報誌などでもヌートカ語の用語の表記に広く用いられているが、表記されない音が多数ある、同様の音対立の表し方が一貫していないなど、ヌートカ語の表記法としては問題が多い。以下にいくつか例をあげる。

Nuu-chah-nulth [nuʉ a:əuɪ]

Tla-o-qui-aht [ʧaaʉ:kʂ äatò]

ha-silth-sa [ha:siɪsa]

- 長母音の表示法が一定でない：uu [u:]、ah [a:]
- 声門化音と非声門化音の区別がなされていない：n [n]、n [ɛ̃]
- 声門閉鎖音が表されていない
- 長母音が表されていない：o [u:]、a [a:]
- 同じ長母音の表記が一定でない：uu, o [u:]
- 誤解を招く表記：qui [kʂi]（ヌートカ語には/q/も音素としてある）